

三十余人文明十六年正月十日漸入城依隣村より
諸代恩顧の者共馳來て既なる余人及び同二日夜
より刻城中より大城中騒動して後平九郎殿
漸西館に馳集り警固す金煙充満して大城火
移りて宝藏役所焼失叔其大西館北城より移り燃
やんと波りぬを倭兵天曇り大雨頻り降大竜城
戸をて曲まると頭を火北方に向水を吹事融れぬと
北大河の如く大波をおて流るれぬ火忽ち消大竜の
光りを放ちて西嶽の方には死せるは是より西指片が
なく平九郎殿所母子向幸なり是より天満天神に

應護行赤頼母浦いり天神を敬ひ奉る戸は後路守
我居宅火を抵城中残り少く焼拂き其後室方
の者を討とぐべし到へ手れ者多く焼死しれど後方
なく淀川に立退忠々心を含せ秋田に降て山平仙
北を掠めて押順しる程大平に淀川に淀りて北浦
にかり後室北支既して角館に所なるれり文明
十七年又月三日秋田勢桶本の城を守り田口加賀守
を攻る同日合戦翌日閉城角館に落行同日益田の
城を攻る川屋肥前守合戦大勢に世勢戦ひ負妻子
を利殺し切服同十八日を傷城を攻る黒川肥後守降